



2026年9月期第3四半期 決算補足説明資料

2026年8月7日



エグゼクティブサマリ

順調

2026/9期3Q決算は対前年で売上が2.1倍。EBITDAも2倍に伸長。通期見通しへの進捗率は営業利益でほぼ100%

ネットキャッシュ

2026/9期3Q末で39億円。ファスキア株式取得後もネットキャッシュ状態を継続。次なる成長への投資原資に

見通し据置

通期見通しは据置き。通期見通しへの進捗率は既に高いものの、不確実要因を勘案し、保守的なスタンスを採用

老朽病院建替

築後40年超の病院は全病院の約2割。建替促進補助金の予算が成立すれば、病院建替え需要の拡大期待高まる



1

2026年9月期3Q決算実績



2026年9月期3Q経営成績①

- 3Q累計決算は対前年で売上が2.1倍。EBITDAも対前年で約2倍の11億円。のれん償却などの影響から営業利益は36%増加。期初にグループ入りしたファスキアグループが大きく影響。通期見通しへの進捗率は経常利益でほぼ100%
- 旧レオクラングループの推移は、主力のメディカルトータルソリューション事業で前年計上の好採算案件の反動影響から、営業減益

経営成績の推移

(百万円)	2023/9期 3Q累計実績	2024/9期 3Q累計実績	2025/9期 3Q累計実績	2026/9期3Q累計			2026/9期通期	
				実績	前年同期 差異	前年同期比 増減率	見通し	3Q時点 進捗率
売上高	16,674	15,713	17,208	36,183	+18,975	2.1倍	44,500	81.3%
メディカルトータルソリューション	15,828	14,823	16,291	16,116	▲175	▲1.1%	20,645	78.1%
遠隔画像診断サービス	540	572	613	616	+2	+0.4%	832	74.1%
低侵襲医療機器販売				17,626	+17,626	-	20,580	85.6%
レンタル				467	+467	-	630	74.1%
その他	305	317	302	1,358	+1,055	4.5倍	1,811	75.0%
EBITDA*	414	311	542	1,055	+513	+94.8%	1,185	89.0%
営業利益	337	237	474	644	+169	+35.7%	680	94.7%
メディカルトータルソリューション	277	170	406	177	▲228	▲56.3%	153	116.0%
遠隔画像診断サービス	49	51	58	59	+0	+0.6%	73	80.8%
低侵襲医療機器販売**				350	+350	-	380	92.2%
レンタル**				62	+62	-	88	70.9%
その他**	8	12	8	55	+47	6.6倍	42	132.1%
調整	1	1	1	▲60	▲62	-	▲56	108.2%
経常利益	328	240	492	607	+115	+23.4%	610	99.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	195	190	317	280	▲37	▲11.7%	230	122.0%

*EBITDA = 営業利益 + 償却費と定義 **セグメント利益はのれん償却費・株式取得関連費用配分額を控除後ベース



セグメント別業績推移

■ 売上高 (百万円) ■ 営業利益 (百万円)
■ EBITDA (百万円) ○ 営業利益率/EBITDAマージン (%)

メディカルトータルソリューション事業



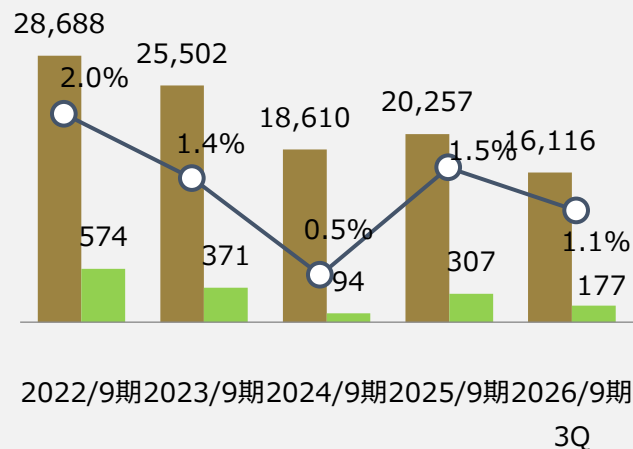
株式会社 レオクラフ



Healthcare Research & Development
Total Supporting Company
医療開発研究所

株式会社L&G システム

- 3Qは案件計上一巡の端境期。大型案件の計上も少なく、営業利益率はやや低下
- 事業環境は厳しい状況継続。病院の潜在的な更新需要は根強いものの、建設費高騰などが影響



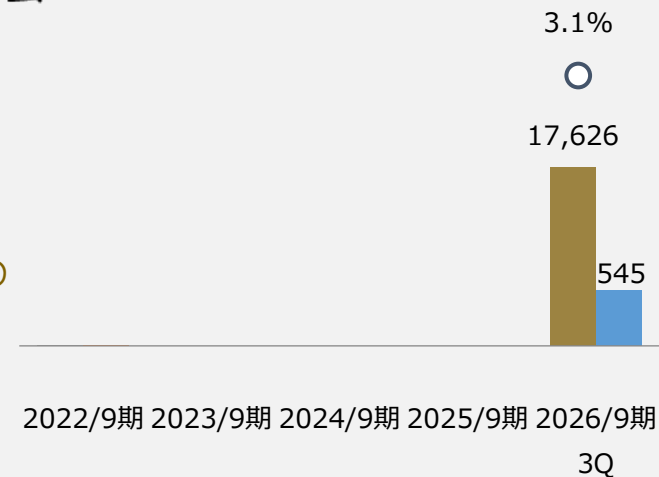
低侵襲医療機器販売事業



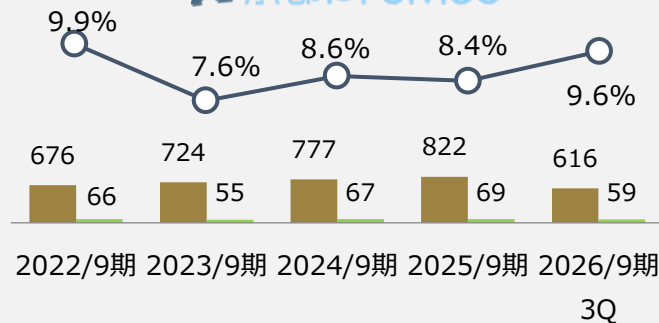
先端医療に貢献する医療専門商社

株式会社フォーム

- 堅調に推移。特に主力のCRM関連（心臓律動管理）が着実に伸長
- スポット的な大型の医療機械も売上・利益に貢献



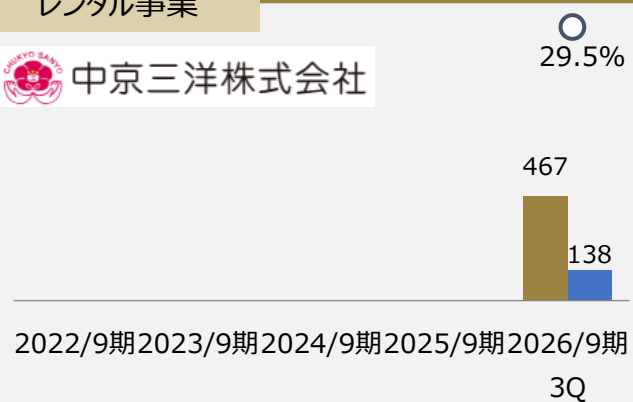
遠隔画像診断サービス事業



レンタル事業



中京三洋株式会社



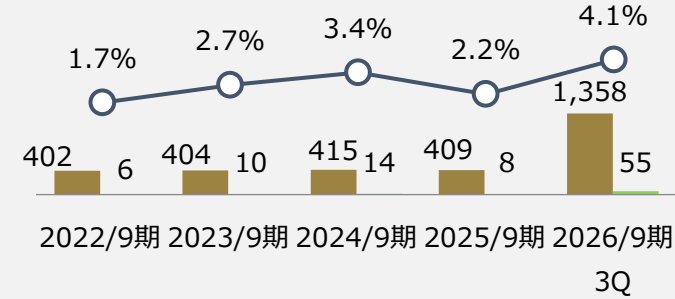
その他



株式会社ゲイト



補聴器専門商社
株式会社 シンコム





2026年9月期3Q経営成績②

- 四半期ベースでは同一基準で比較できる2Qに対して14%の減収。2主力事業では、低侵襲医療機器販売はスポット売上などを主因に売上増となったものの、案件端境期となったメディカルトータルソリューションの減収は吸収できず
- 損益面でも対2Qで減益。メディカルトータルソリューションの営業赤字計上が影響。なお、3Qの粗利率実績は11.7%。高水準は維持するものの、2Q実績比では0.9pt低下

経営成績の推移

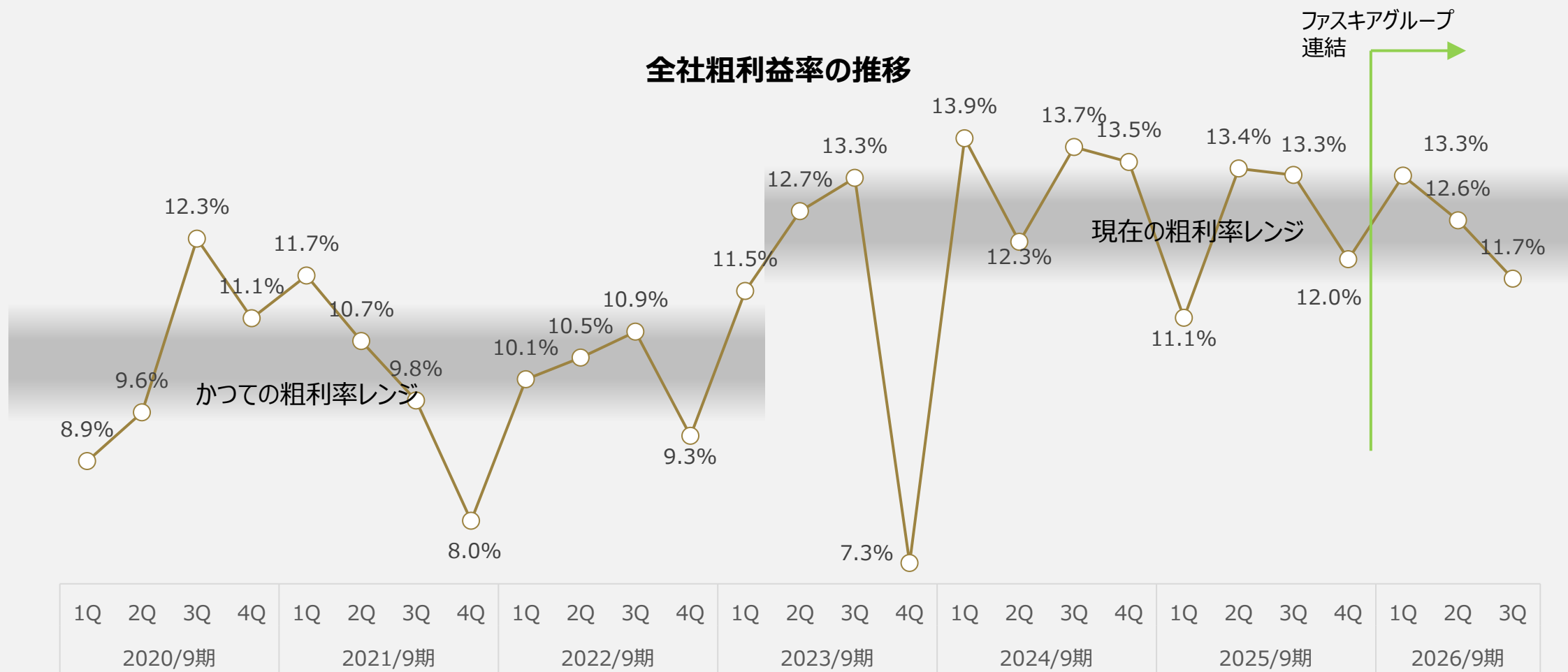
(百万円)	2024/9期				2025/9期				2026/9期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q*	2Q	3Q
売上高	5,413	6,803	3,496	4,090	3,171	9,769	4,267	4,281	10,372	13,908	11,903
メディカルトータルソリューション	5,124	6,509	3,189	3,787	2,871	9,466	3,954	3,965	4,806	7,668	3,640
遠隔画像診断サービス	186	185	200	205	206	203	204	208	209	203	204
低侵襲医療機器販売									4,728	5,461	7,436
レンタル									166	150	149
その他	102	108	106	97	93	99	109	107	461	424	472
EBITDA	160	246	▲95	▲33	▲212	753	0	▲164	135	658	262
営業利益	136	221	▲120	▲59	▲235	732	▲22	▲186	7	519	117
メディカルトータルソリューション	117	200	▲147	▲76	▲256	709	▲46	▲98	▲4	309	▲127
遠隔画像診断サービス	15	15	21	15	23	18	17	10	23	17	17
低侵襲医療機器販売									40	143	166
レンタル									8	28	24
その他	2	5	5	1	▲2	3	6	0	6	12	36
調整	0	0	0	0	0	0	0	▲99	▲67	8	▲0
粗利率	13.9%	12.3%	13.7%	13.5%	11.1%	13.4%	13.3%	12.0%	13.3%	12.6%	11.7%

*2026/9期1Qは、企業結合について、取得原価の配分の見直しを行った影響を反映



粗利益率の推移

■ 3Qの粗利率は11.7%。新たに加わったファスキアグループも高粗利率であり、全体として高い水準を維持



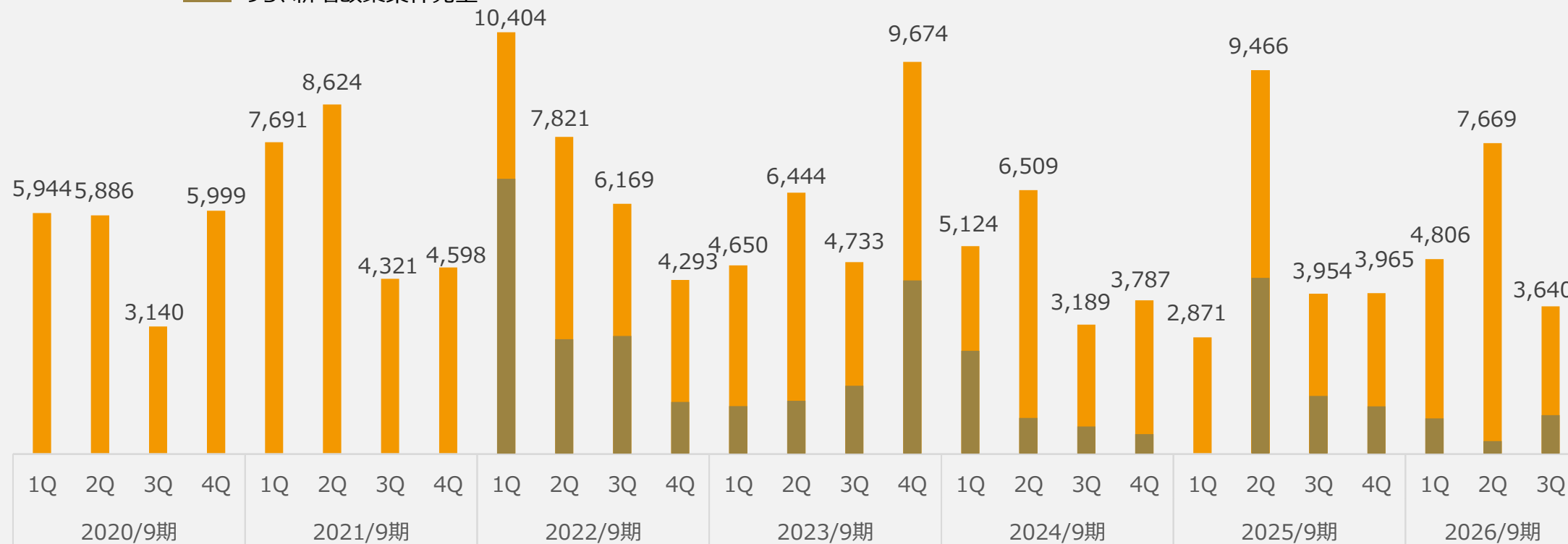


メディカルトータルソリューション事業売上推移

- メディカルトータルソリューション事業の3Q会計期間の売上高は36億円。案件計上の一巡から、4四半期ぶりに対前四半期で減少
- 新增改築案件売上はまだ低水準。病院の新增改築需要の顕在化にはまだ至らず

メディカルトータルソリューション事業売上推移

(百万円) ■ メディカルトータルソリューション事業売上
 ■ うち、新增改築案件売上



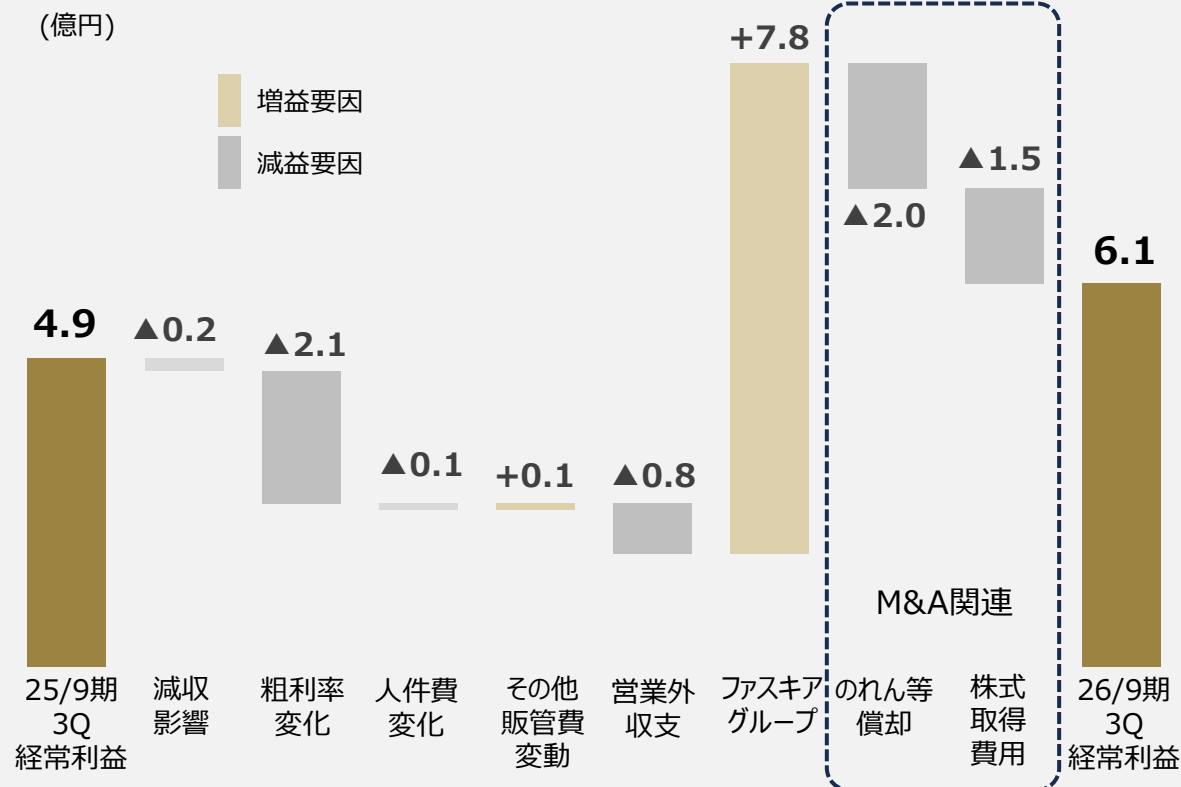
注) 2021/9期以前の新增改築案件売上は非開示



2026年9月期3Q 経常利益増減益要因分析

- 3Qの経常利益は対前年比1.2億円の増加。旧レオクラングループは3.0億円の減益ながら、ファスキアグループ連結効果が奏功
- 旧レオ克蘭では、メディカルトータルソリューション事業の大型案件減少により、粗利率が1.2ポイント低下。ファスキアグループの連結効果はのれん償却を加味して5.7億円となるが、当期は一時的なM&A関連費用の計上でその効果はフルには寄与せず

経常利益増減益分析



<旧レオクラングループ>

- 減収影響 ▲0.2億円
 - ・メディカルトータルソリューション事業売上は横ばい圏も、大規模案件は減少
- 粗利率変化 ▲2.1億円
 - ・粗利率は1.2pt低下（12.9%→11.7%）
- 人件費変化 ▲0.1億円
- 営業外収支 ▲0.8億円
 - ・借入増に伴う支払金利負担増

<ファスキアグループ>

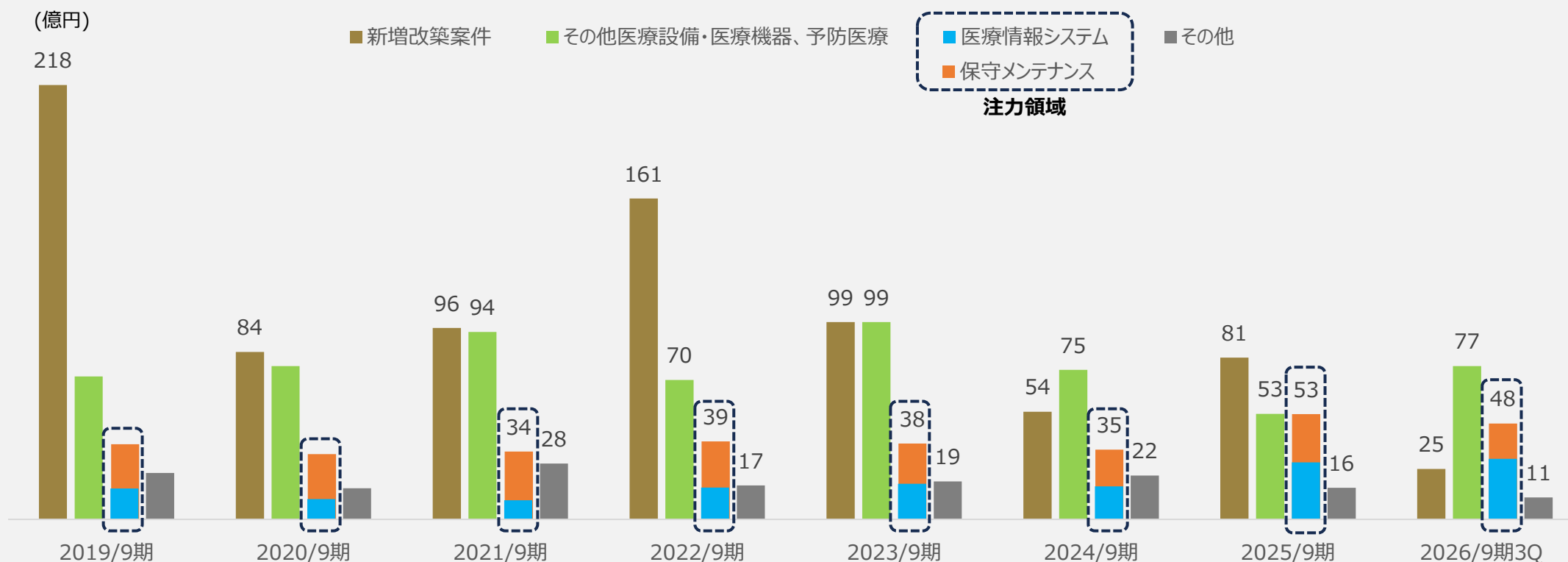
- 経営統合 +7.8億円
- M&A関連費用 ▲3.5億円
 - ・のれん等の償却 ▲2.0億円
 - ・株式取得関連費用の増加 ▲1.5億円



メディカルトータルソリューション事業 売上内訳推移

- メディカルトータルソリューション事業の3Q売上内訳は、新增改築売上の伸び悩みはあるも、その他医療設備・機器は好調に推移。建設費高騰などの懸念要因はあるも、機器更新を推進する病院ニーズは着実に獲得
- 注力領域たる医療情報システム、保守・メンテナンスの売上も順調。特に医療情報システムは2021/9期を起点とすると、2026/9期3Q累計で売上規模は既に3倍超に伸長

メディカルトータルソリューション事業売上内訳

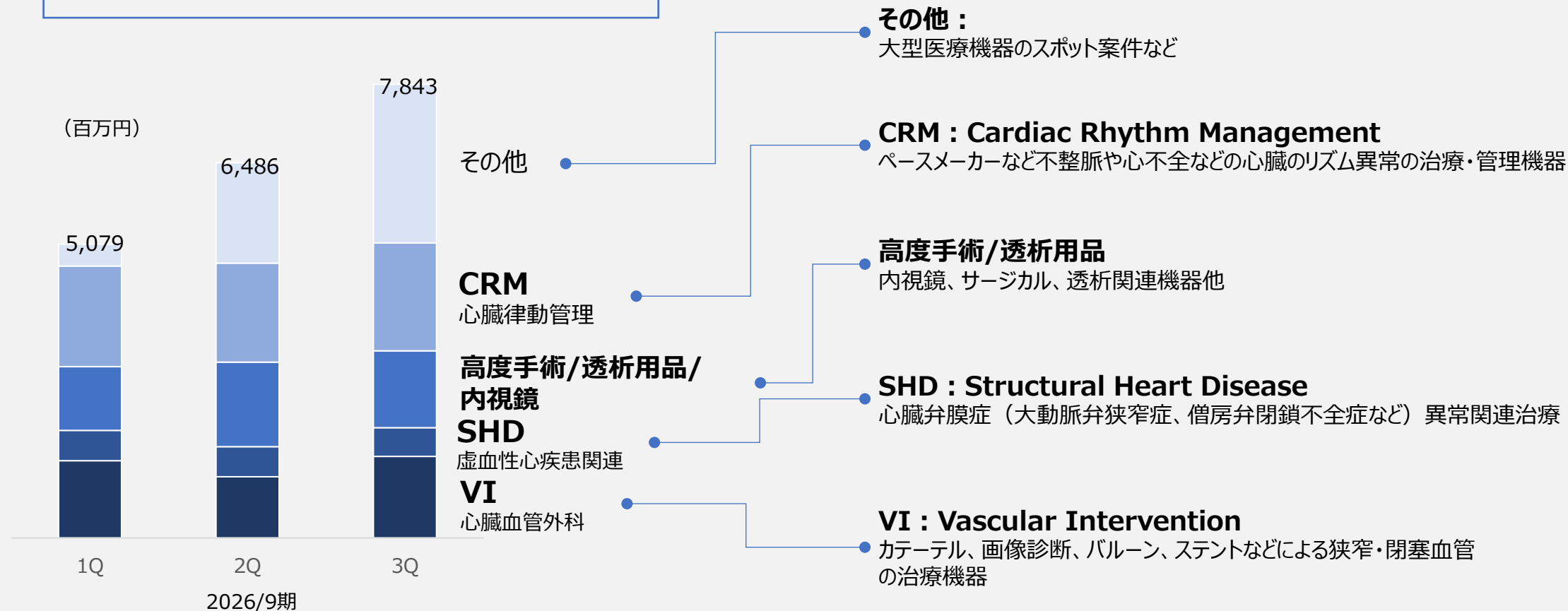




低侵襲医療機器販売事業 売上内訳

低侵襲医療

身体への負担（切開、出血、発熱など）を最小限に抑える治療方法。患者の体力負担軽減が主たるメリット



*収益認識基準適用前のため、決算における売上高とは一致しない



2026年9月期3Q 貸借対照表

- 総資産は前期末比約2.2倍の223億円。期初に買収したファスキアグループ連結の影響が大
- 3Q末時点のネットキャッシュは前期末比7億円減の39億円。ファスキアホールディングスの株式取得に伴うキャッシュアウト後もネットキャッシュ状態を継続し、財務安定性は引続き盤石。加えて、借入活用によりWACCは低下。3Q末の自己資本比率は26.1%

財政状態の推移

(百万円)	2022/9期	2023/9期	2024/9期	2025/9期	2026/9期 3Q	前期末比差異
流動資産	12,232	13,508	9,583	9,298	15,463	+6,165
現預金	5,480	5,537	5,574	4,776	8,779	+4,002
売上債権	4,360	7,796	3,821	4,198	5,842	+1,643
棚卸資産	24	21	71	23	643	+620
その他	2,368	153	118	302	200	▲102
貸倒引当金	▲0	▲1	▲1	▲2	▲1	+1
固定資産	1,235	1,185	1,076	1,571	6,832	+5,261
総資産	13,468	14,693	10,659	10,869	22,296	+11,427
負債	7,930	8,969	4,918	5,050	16,276	+11,226
仕入債務	3,960	7,620	3,417	3,470	8,175	+4,704
有利子負債	92	2	9	7	4,915	+4,908
その他	3,876	1,347	1,490	1,572	3,185	+1,613
純資産	5,537	5,724	5,741	5,819	6,020	+201
負債純資産合計	13,468	14,693	10,659	10,869	22,296	+11,427



2

2026年9月期決算見通し



2026年9月期業績見通し

- 2026/9期通期見通しは従来想定を据置き。売上は前期比2.1倍の445億円、EBITDAは3.1倍の12億円と想定。3Q時点で通期見通し進捗率はかなり高い水準に到達しているものの、不確定要素を勘案し、保守的に想定
- セグメント別には、メディカルトータルソリューション事業が増収見通しながら、新增改築案件減で営業減益。新規連結となった低侵襲医療機器販売は売上高ではメディカルトータルソリューション事業と並ぶ規模を計上。当期では最大の利益計上セグメントとなる見通し

経営成績の推移

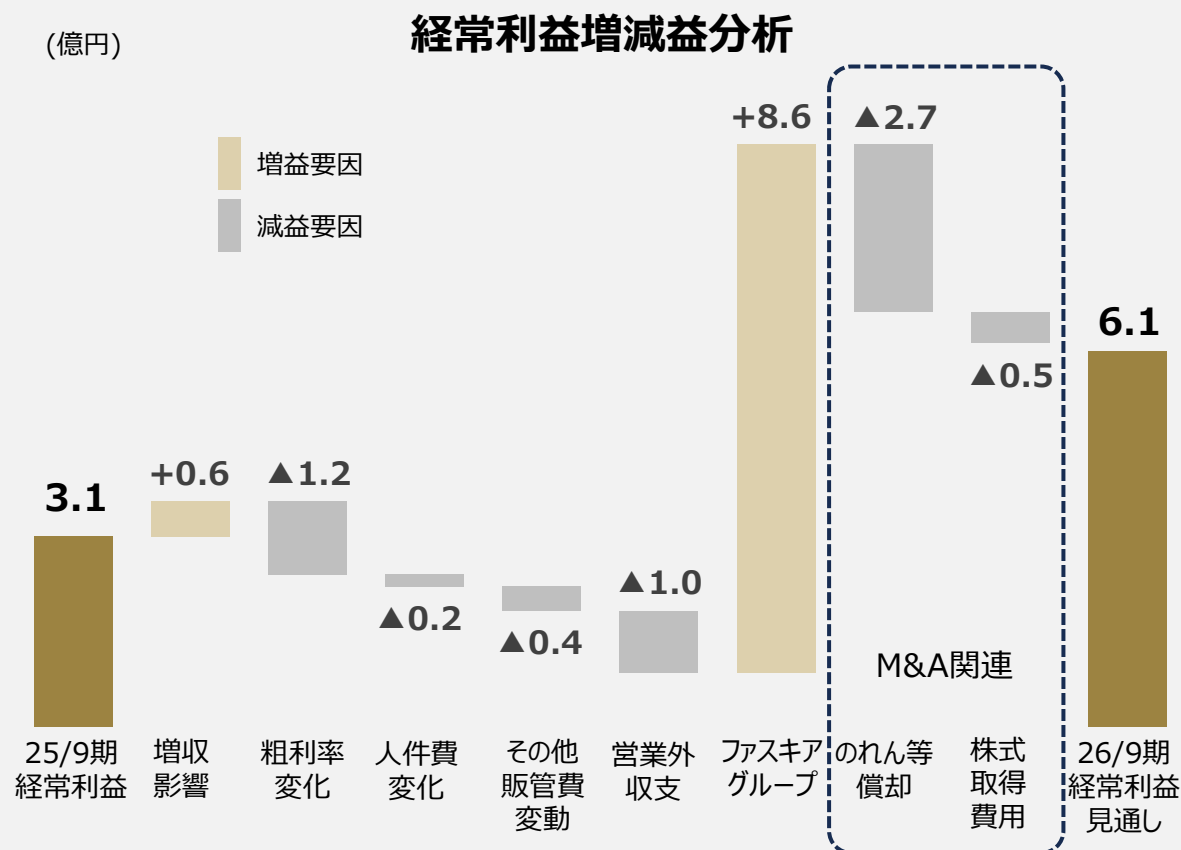
(百万円)	2024/9期 実績	2025/9期 実績	2026/9期				前年比 増減率
			上期実績	3Q実績	下期見通し	通期見通し	
売上高	19,804	21,489	24,280	11,903	20,219	44,500	2.1倍
メディカルトータルソリューション	18,610	20,257	12,475	3,640	8,170	20,645	+1.9%
遠隔画像診断サービス	777	822	412	204	419	832	+1.2%
低侵襲医療機器販売			10,189	7,436	10,390	20,580	-
レンタル			317	149	312	630	-
その他（2025/9期以前は給食）	415	409	885	472	926	1,811	4.4倍
EBITDA*	277	378	793	262	392	1,185	3.1倍
営業利益	178	288	526	117	153	680	2.4倍
メディカルトータルソリューション	94	307	304	▲127	▲151	153	▲50.3%
遠隔画像診断サービス	66	69	41	17	31	73	+5.4%
低侵襲医療機器販売**			183	166	196	380	-
レンタル**			37	24	50	88	-
その他（2025/9期以前は給食）**	14	8	18	36	23	42	4.7倍
調整	2	▲97	▲59	▲0	3	▲56	赤字縮小
経常利益	181	308	507	100	102	610	+97.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	136	152	235	44	▲5	230	+50.5%

*EBITDA = 営業利益 + 償却費と定義 **セグメント利益はのれん償却費・株式取得関連費用配分額を控除後ベース



2026年9月期 経常利益増減益要因分析

- 通期で約3億円の経常増益を見込むも、その主因は今期よりグループ化したファスキアの貢献。のれん償却や一時的なM&A関連費用の計上はあるものの、ファスキアグループで5億円を超える増益要因となる見通し
- 一方、旧レオクラングループではメディカルトータルソリューション事業の好採算案件一巡に伴う粗利率低下が収益を圧迫。借入増による支払金利負担も減益要因に



<旧レオクラングループ>

- 増収影響 +0.6億円
 - ・メディカルトータルソリューション事業は微増収
- 粗利率変化 ▲1.2億円
 - ・粗利率は0.6pt低下 (12.8%→12.2%)
- 人件費変化 ▲0.2億円
- 営業外収支 ▲1.0億円
 - ・借入増に伴う支払金利負担増

<ファスキアグループ>

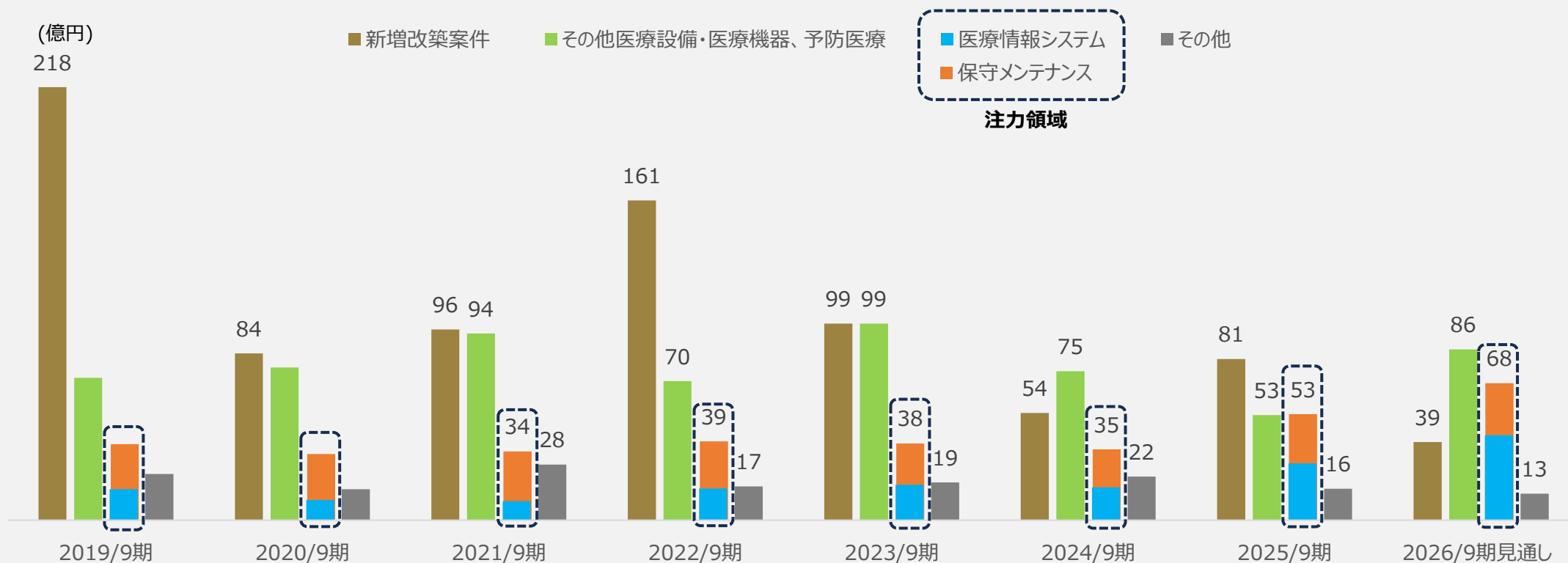
- 経営統合 +8.6億円
- M&A関連費用 ▲3.2億円
 - ・のれん等の償却 ▲2.7億円
 - ・株式取得関連費用の増加 ▲0.5億円



メディカルトータルソリューション事業 売上内訳推移

- メディカルトータルソリューション事業の売上見通しも従来想定を据置き。新增改築案件の売上前提は前年比減少を見込む一方、医療設備・機器、予防医療、医療情報システム、保守・メンテナンスは前年比で増収を見込む
- 新增改築案件は依然として当事業の中核ながら、周辺売上の拡大により、徐々にその依存度は低下する見通し

メディカルトータルソリューション事業売上内訳





新增改築案件 予想前提

- 2026/9期の新增改築案件の売上想定も従来見通しを継続。年間で39億円を想定し、前期比では52%減収となる見通し
- 年間想定に対する3Qまでの新增改築案件売上進捗率は64%。4Qの案件集中を見込み、3Qまでの進捗率は概ね想定通り

メディカルトータルソリューション事業における病院新增改築案件向け医療機器一括販売の推移

(百万円)		2023/9期	2024/9期	2025/9期	2026/9期		前期対比
					3Q実績	通期見通し	
20億円以上	売上高	2,296	2,942	3,768	-	-	▲3,768
	件数	1	1	1	-	-	▲1
	平均単価	2,296	2,942	3,768	-	-	▲3,768
10億円以上	売上高	3,594	-	1,302	-	-	▲1,302
	件数	3	-	1	-	-	▲1
	平均単価	1,198	-	1,302	-	-	▲1,302
10億円未満	売上高	3,984	2,449	3,049	2,527	3,930	+880
	件数	13	10	10	9	12	+2
	平均単価	306	244	304	280	327	+22
合計	売上高	9,874	5,392	8,120	2,527	3,930	▲4,190
	件数	17	11	12	9	12	-
	平均単価	580	490	676	280	327	▲349
事業売上に占める一括販売比率		38.7%	29.0%	40.1%	15.7%	19.0%	+21.1pt

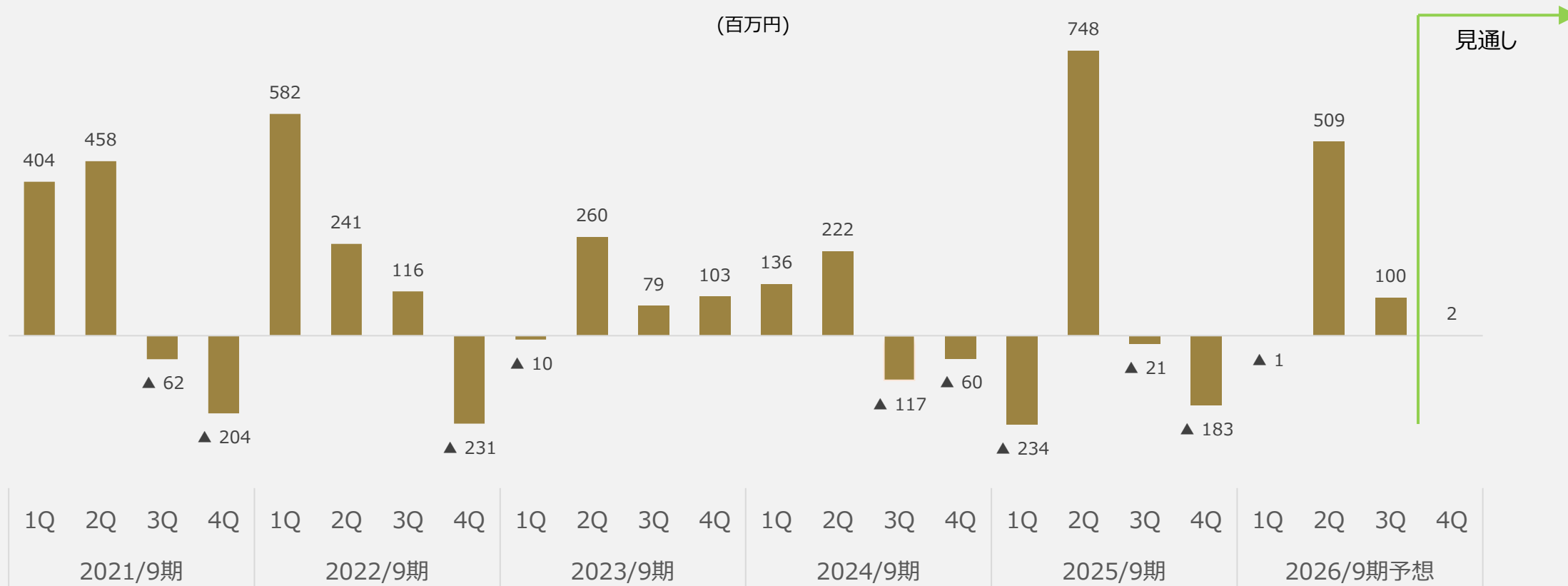


2026年9月期四半期別経常利益想定

- 2026/9期4Q見通しは若干の黒字の想定。ただし、これは通期見通しから3Q累計実績を差し引いて算出したベースであり、不確定要素などを考慮した保守的なもの。実際にはこの数字を上回る可能性が高いと想定

四半期別経常利益の推移

(百万円)





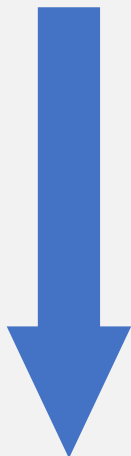
3

トピックス



トピックス1：老朽病院建替え補助金報道

2026年7月28日、日本経済新聞は**厚労省が病院の新增築費用を2027年度予算で要求**すると報道。建築費の高騰で増加する**建替困難な病院の支援**が狙い



病院経営の実態

- ① 厚労省調べでは、**約1,600棟が築後40年超**
- ② これは、全国の調査対象病院8,728棟の**約2割を占める規模**
- ③ しかし、病院の改築は**経営悪化や建設コスト上昇から停滞**
- ④ 現状の放置では**地域医療への影響が出かねない状況**



当社案件においても、**病院建替え計画がストップしている事例が増加**

制度内容及び実施時期等に不確実性があるものの、
実現すれば病院が**新增改築に踏み切るきっかけ**となる可能性も



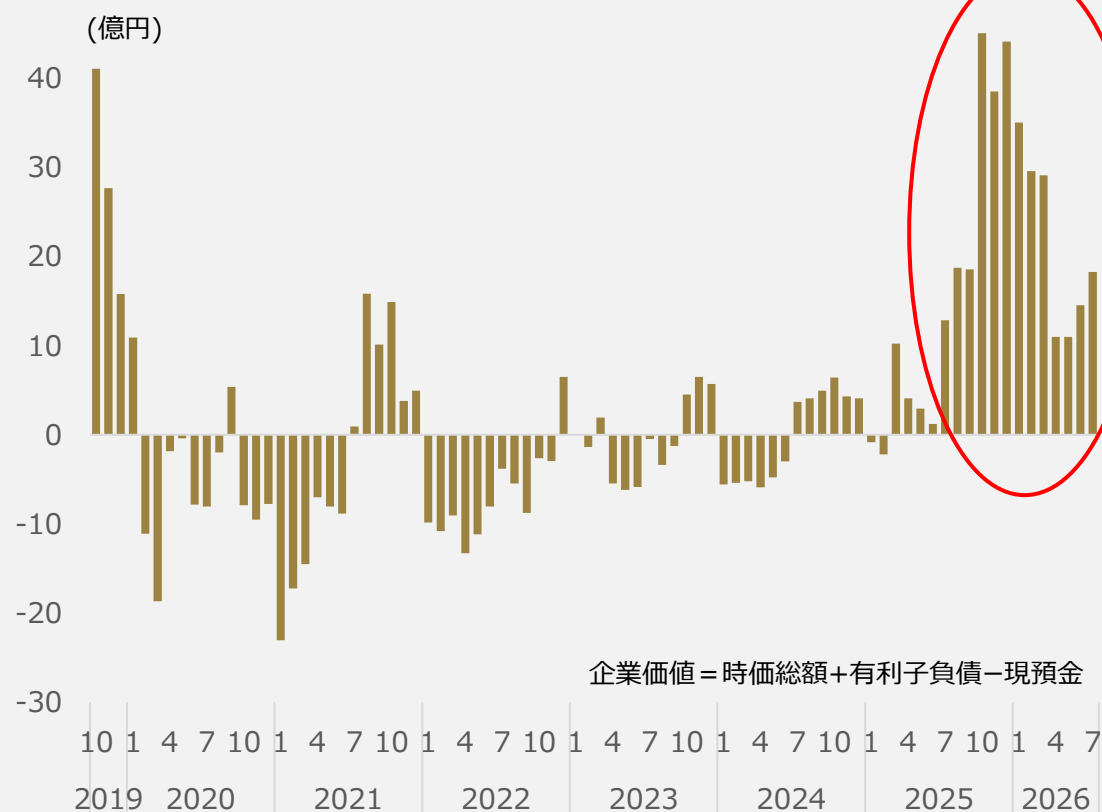
当社でも、**計画中断下にある案件の再始動や
新たな建替需要の呼び水**になると期待



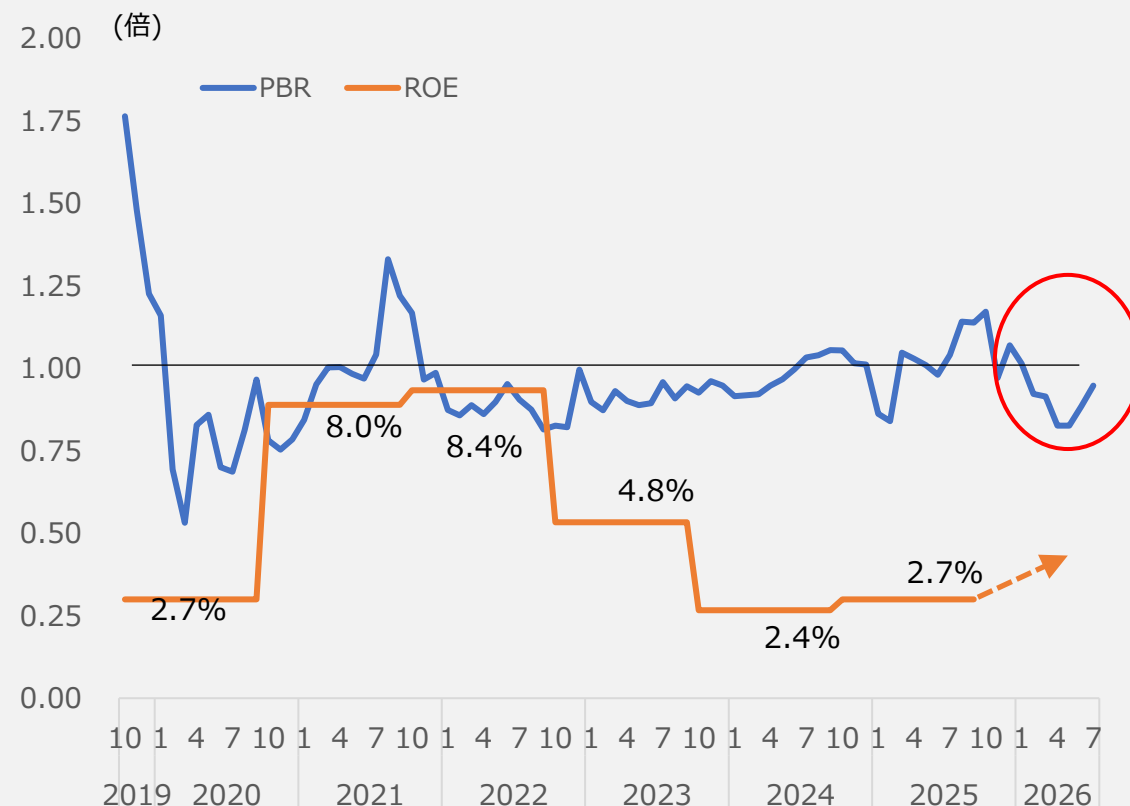
トピックス2：資本コストや株価を意識した経営（アップデート）

- 企業価値は2025/7以降、プラスを安定的に持続。PBRも概ね1倍水準で推移
- 2026/9期の予想ROEは3.5～4.0%となる見通し。株主資本コストにはまだ及ばないものの、ROE水準は上昇基調に転換

企業価値の推移



PBRとROEの推移





業績・財務ハイライト

決算年月		2020年9月	2021年9月期	2022年9月期	2023年9月期	2024年9月期	2025年9月期	2026年9月期 3Q
売上高	(千円)	21,996,890	26,347,156	29,767,431	26,632,145	19,804,248	21,489,527	36,183,943
経常利益	(千円)	207,244	595,939	709,660	431,662	181,146	308,842	607,992
親会社株主に帰属する当期純利益	(千円)	120,839	390,983	437,051	271,306	136,057	152,777	280,588
包括利益	(千円)	141,111	427,266	462,709	294,367	112,733	176,233	313,015
資本金	(千円)	536,169	539,369	539,369	539,369	542,869	545,975	545,975
発行済株式総数(自己株式を含む)	(株)	1,954,400	1,960,800	1,960,800	1,960,800	1,967,800	5,922,000	5,922,000
純資産額	(千円)	4,817,569	5,159,691	5,537,971	5,724,103	5,741,300	5,819,360	6,020,352
総資産額	(千円)	13,414,303	12,964,840	13,468,183	14,693,938	10,659,647	10,869,403	22,296,733
1株当たり純資産額*	(円)	802.93	855.78	915.42	946.33	943.51	951.55	983.82
1株当たり配当額	(円)	45.0	40.0	50.0	50.0	50.0	17.0	—
1株当たり当期純利益*	(円)	20.84	66.64	74.30	46.12	23.09	25.86	47.38
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益*	(円)	20.62	66.11	73.84	45.84	22.96	25.76	—
自己資本比率	(%)	35.1	38.8	40.0	37.9	52.3	51.8	26.1
自己資本利益率	(%)	2.7	8.0	8.4	5.0	2.4	2.7	4.9
配当性向	(%)	72.0	20.0	22.4	36.1	72.2	65.7	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲1,906,273	1,298,076	242,357	341,555	33,083	▲86,650	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲63,598	▲42,129	▲49,958	▲82,011	100,752	▲619,823	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	238,372	▲298,007	▲120,931	▲202,311	▲97,225	▲100,727	—
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	4,430,782	5,388,721	5,460,189	5,517,421	5,554,031	4,746,830	8,749,071
従業員数	(人)	157	162	175	176	170	155	353
(外、平均臨時雇用者数)	(人)	(54)	(58)	(62)	(62)	(62)	(68)	(124)

*2024年10月1日付株式分割(1:3)の影響考慮後



ご留意事項

当資料は、当社の現状をご理解いただくことを目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。当資料に記載されている内容は、当資料発表日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断される一定の前提に基づく計画、期待、判断を根拠としております。したがって、実際の業績等は、経済情勢等様々な不確定要素の変動によって、記載の業績予想等と異なる結果になる可能性があります。実際に投資を行う際のご決定は、必ず投資家ご自身の判断に基づきなされるようお願いいたします。

株式会社レオクラン
経営企画室 IR担当
TEL : 06-4965-8634
Email : ir-support@leoclan.co.jp